



越中は大河の河口。
兵を広げられて
しまったら数で雌雄が
決ってしまう。
砺波山を越えさせるな
オレが行くまで
食い止めてくれ

義仲様

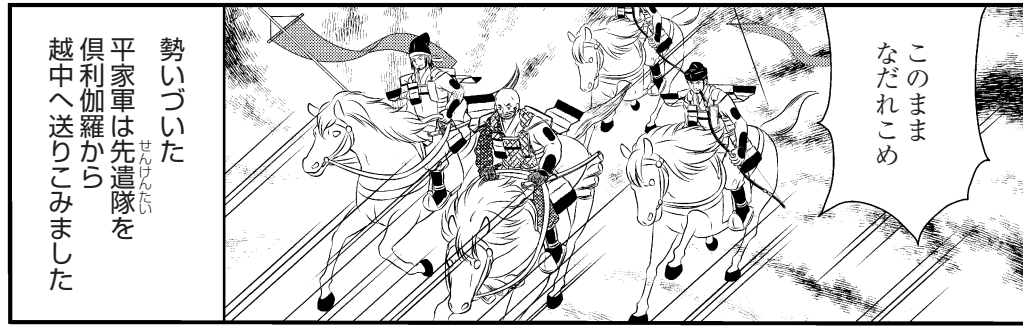


今井四郎兼平
参る！

平家を加賀へ
押し戻す！
それが私の役目



加賀の武將
林と富樫は
越中武士団を
逃がすため
転戦しましたが
齋明の策で
城を落とされて
しまいました



このまま
なだれこめ

勢いづいた
平家軍は先遣隊を
俱利伽羅から
越中へ送りこみました



宮崎
石黒の
奮戦をムダに
するものか



敵は小勢だ
ひるむなっ

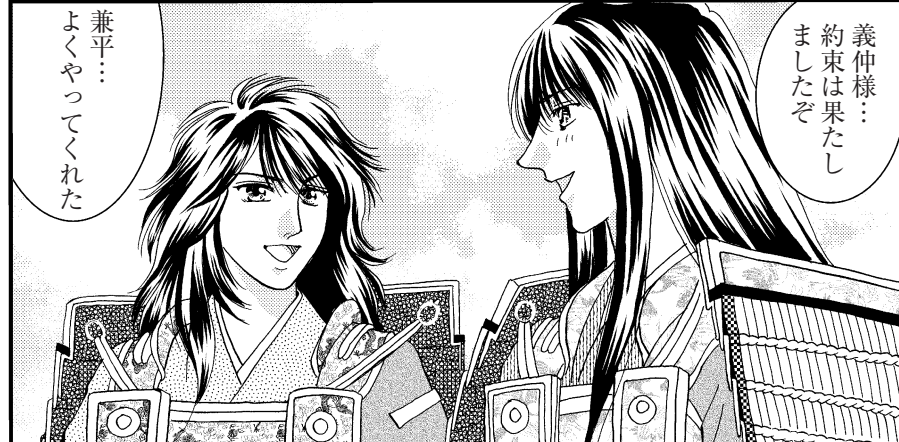
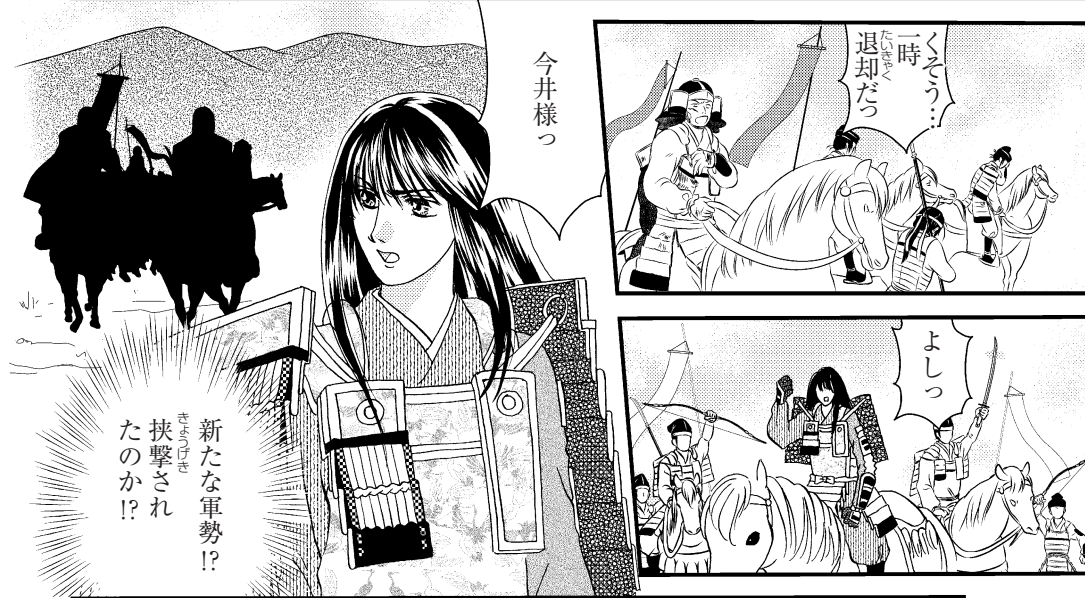
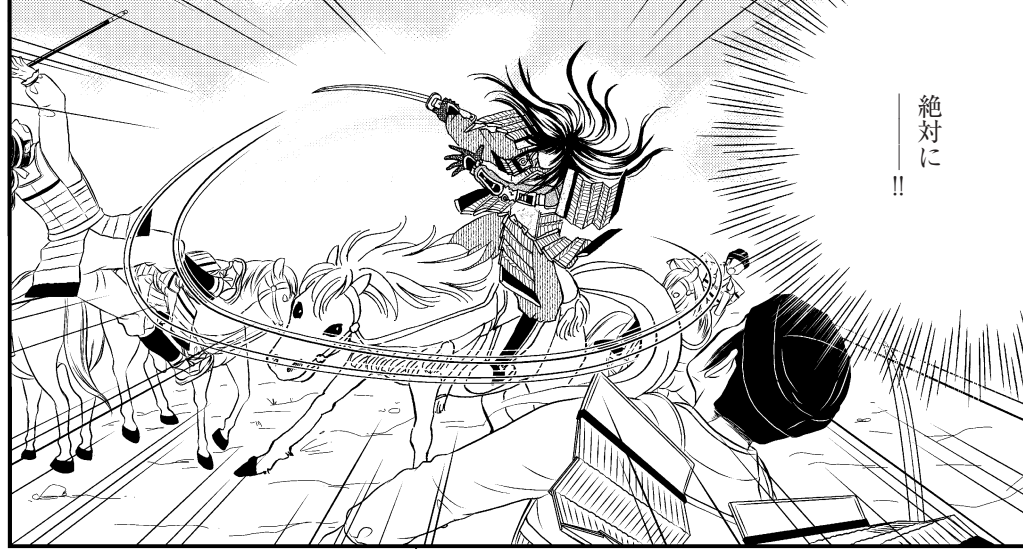
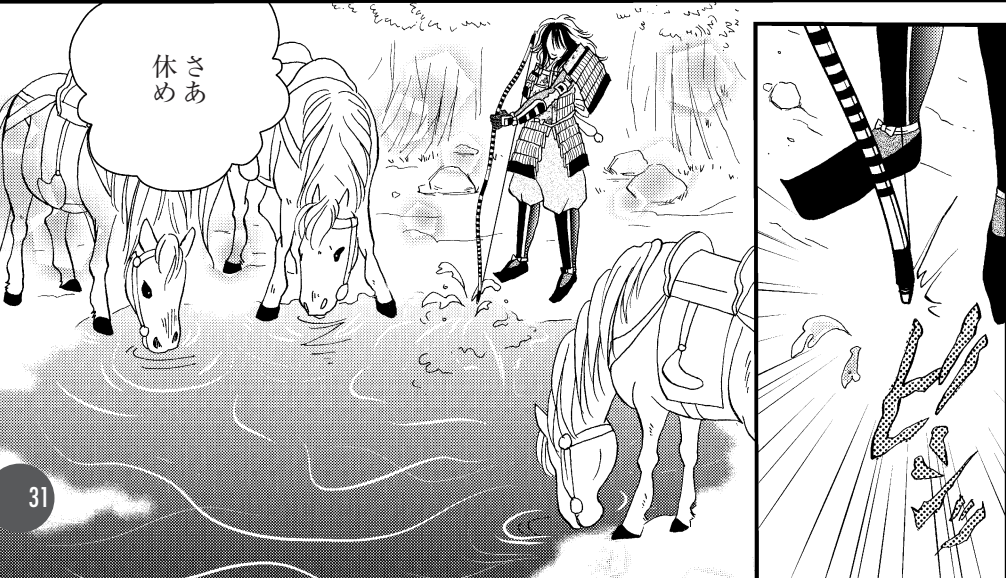
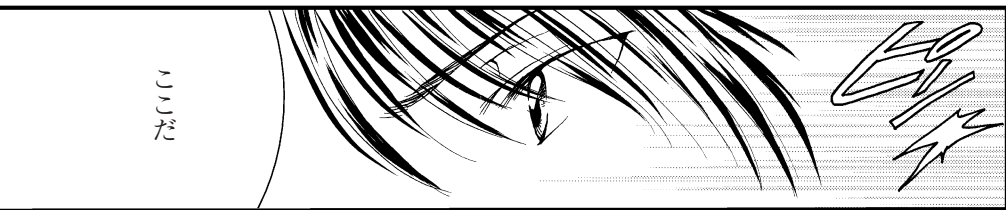


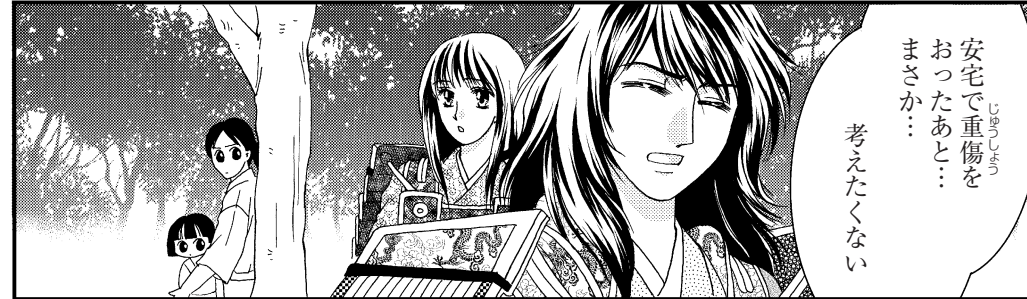
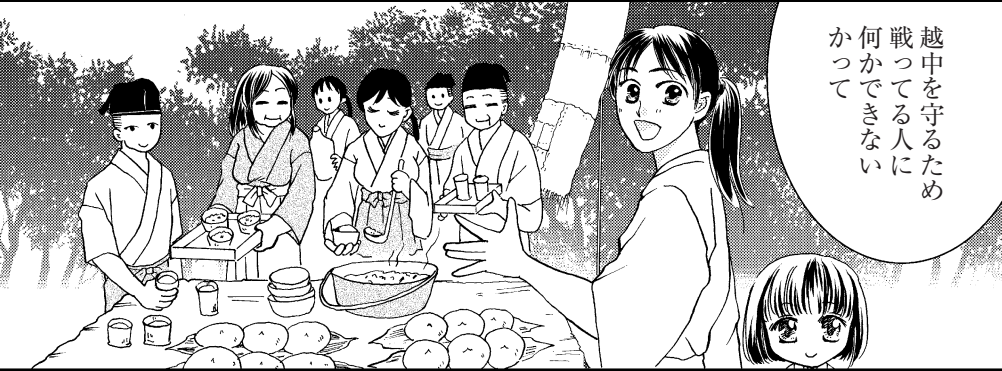
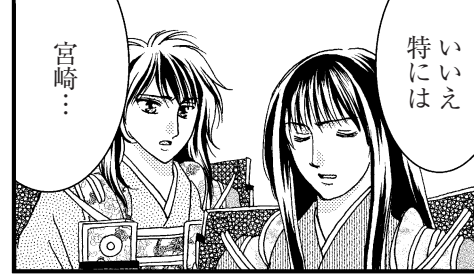
絶対に

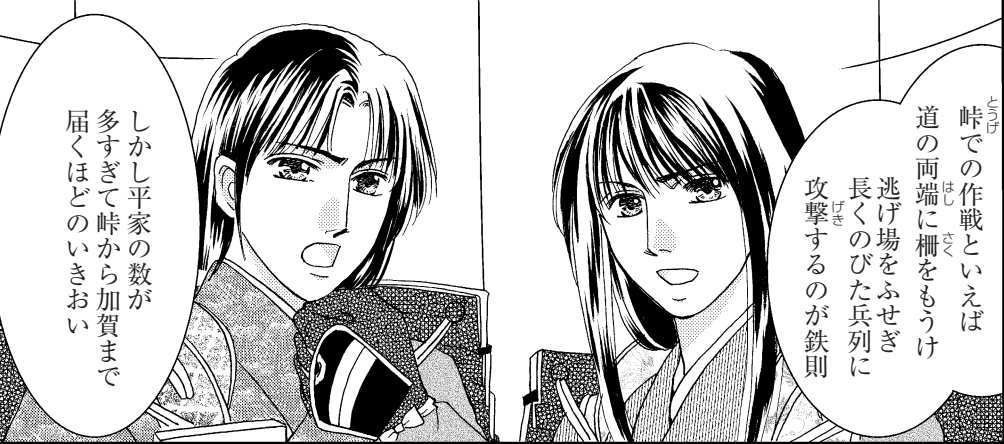


木曾四天王
今井四郎兼平

源氏の
軍か!?

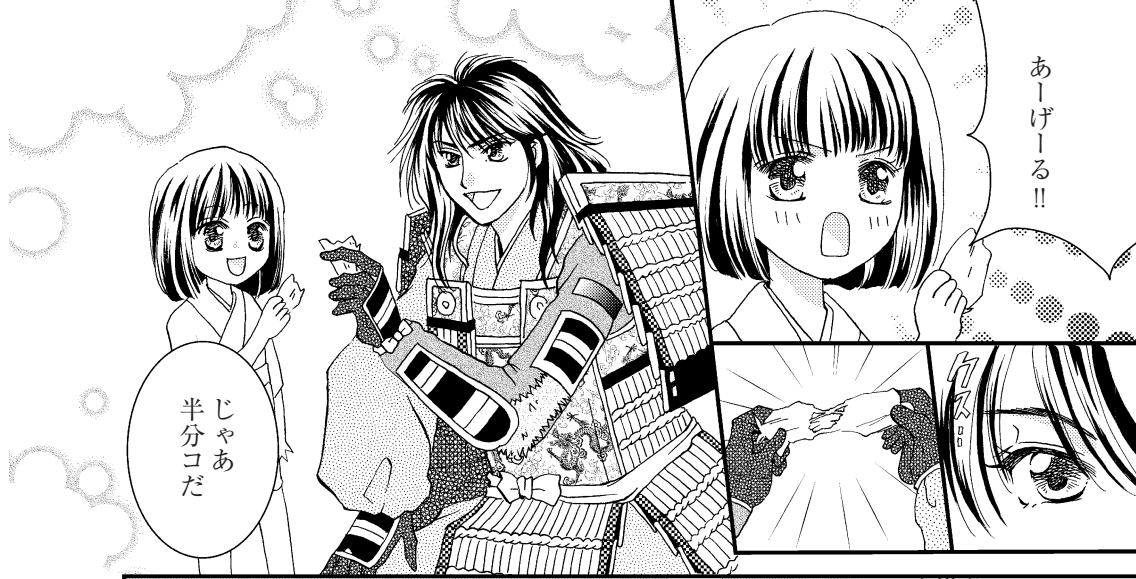






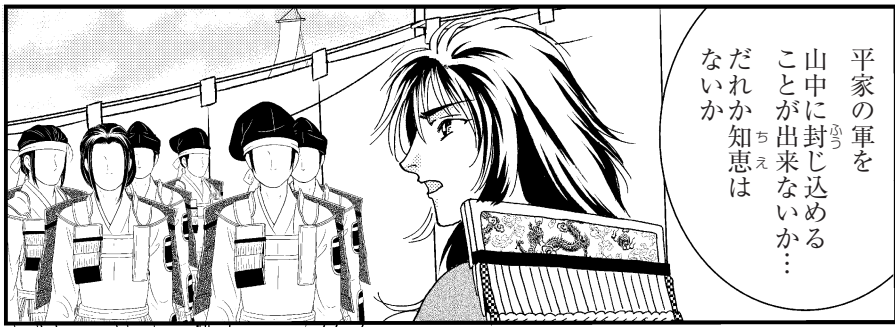
しかし平家の数が
多すぎて峠から加賀まで
届くほどのいきおい

峠での作戦といえば
道の両端に柵をもうけ
逃げ場をふせぎ
長くのびた兵列に
攻撃するのが鉄則

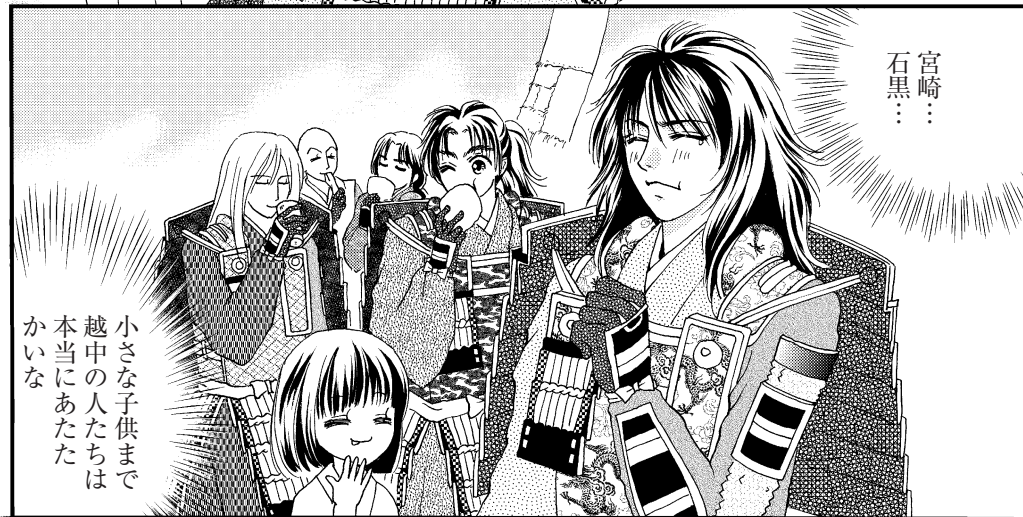


あーげーる!!

じゃあ
半分コだ



平家の軍を
山中に封じ込める
ことが出来ないか…
だれか知恵は
ないか



宮崎…
石黒…

小さな子供まで
越中の人たちは
本当にあたた
かいな



俱利伽羅は
石黒の地元…

二人が
いてくれれば…
いやそれは
言うまい

そこに
平家の軍勢を
結集させましょう

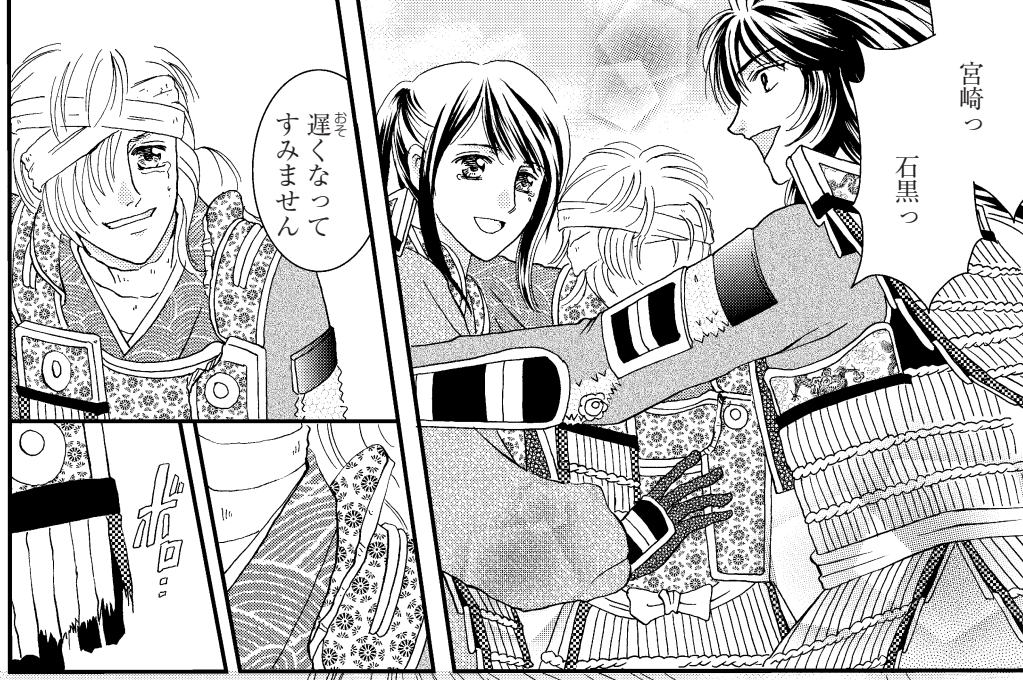
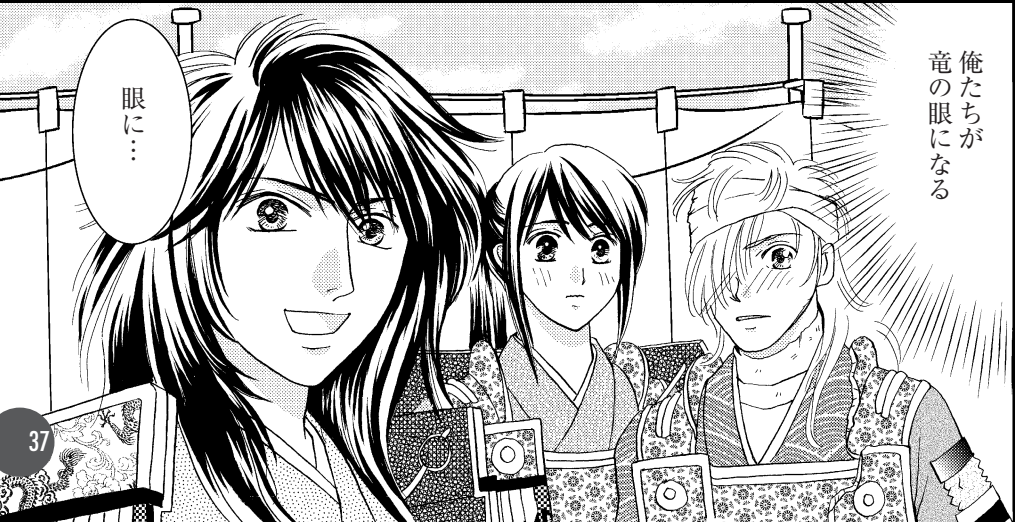
山頂に…
広場が
あります

宮崎
石黒っ



越中の人々の
きもちに支えられて
義仲様の軍勢は
御河端に
たどりつきました

皆の協力で平家を
加賀に追い落とす
ことができた
だが平家も
だまっぺはいないだろう



：わかった
宮崎、石黒、騎上から
我が軍の進む道を
見定めてくれ!!

まずは義仲様が
北国街道をまっすぐ進み
平家をおびきだし
翻弄して下さい

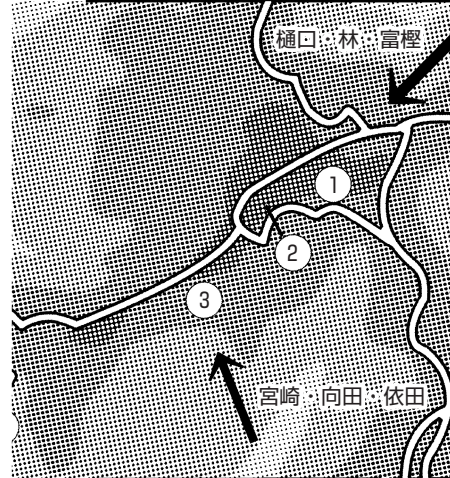
その間に
俱利伽羅の
五つの道将我々が
ご案内します

北の層がうすい
私に加賀まで迂回し
平家を背後から
攻めましょう

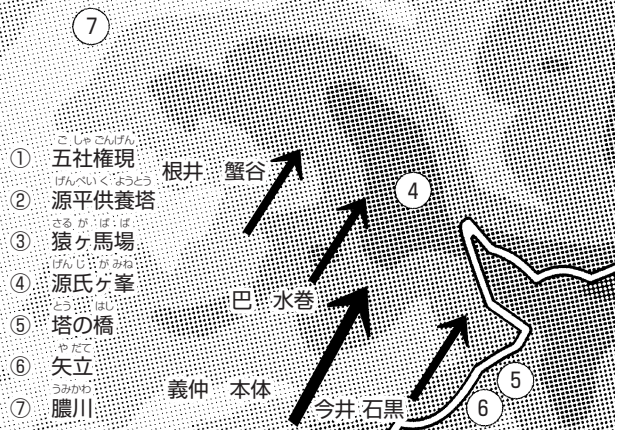
我ら加賀武士が
ご案内します!

決戦は明日の夜!
日中俺が平家を
山頂におびき出す

砺波山北側は
俺と向田が依田殿と
安楽寺からむぐら原へ進み、
平家を尾根に
追い込みます



義仲・巴出世街道マップ
「小矢部市」より



私が蓮沼から
中黒坂を通る道を
今井殿と

松永から山頂へ
向かう道は水巻が
巴殿と

松尾から山の
南端に向かう道は
蟹谷が根井殿と

はい
義仲様

そして
六手で心を合わせ
谷底にひきおとす

数に惑わされるな！
我らには俱利伽羅が
力をかしてくる

決して平家に
負けることはない

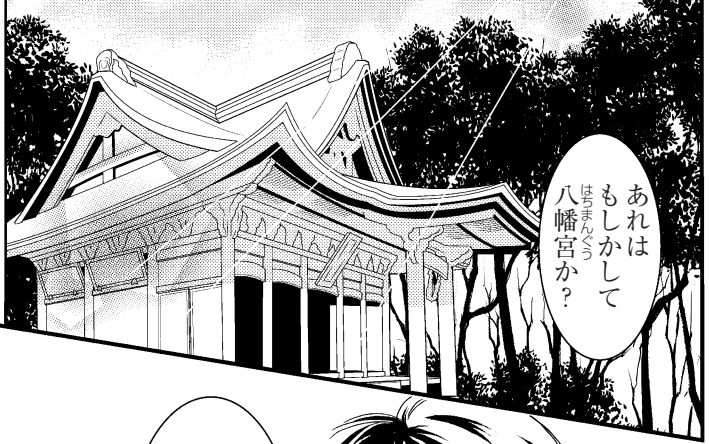
俺を信じて
ついてこい



あれは
もしかして
八幡宮か？

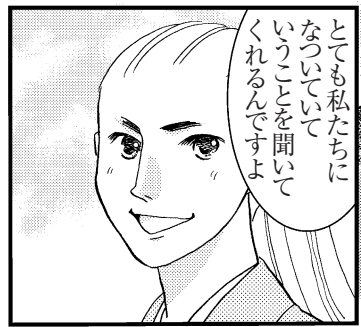
神の導き
だろうか…
覚明よ！願文を
ささげよ！

義仲様が率いる
三万騎は
小矢部川を渡り
増生の庄に陣を
とりました



夜の決戦を目指し
六手の軍勢は
それぞれを
出立しました

とても私たちに
なついていて
いうことを聞いて
くれるんですよ



ずい分たくさんの
牛が放牧されて
いるんですね

そうなん
ですか



信心を捧げる
八幡宮の大前に
申し上げます

よって運を天に任せ
身命を捧げて
義兵を上げることに
しました

義仲、武家に
生まれた以上
平家の暴悪を
だまっ
みているわけには
いきません

今戦いを
起こすのは
一身一家のためでなく
国民を救う
ためであります

どうか神威を
お加えいただき
凶敵を四散させて下さい



霊鳩
れいきゅう

あれは…

俺は信じる…

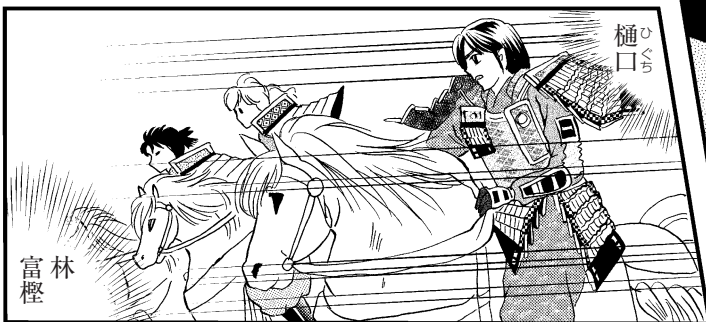
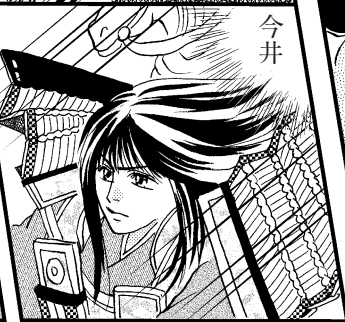
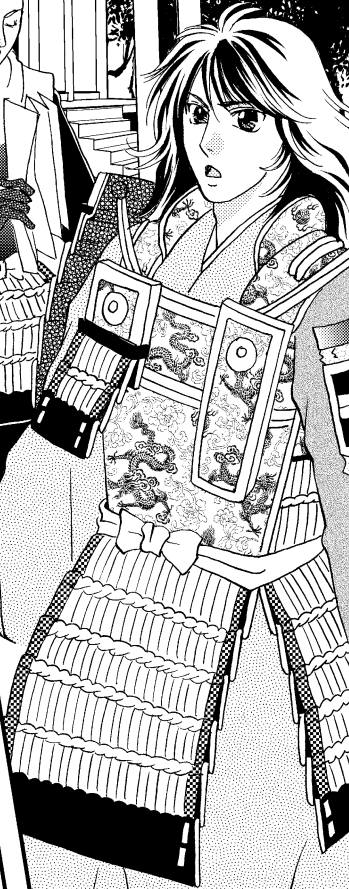
一人一人の
北陸を守るために
強い想い

目の前に
姿が見えなくても

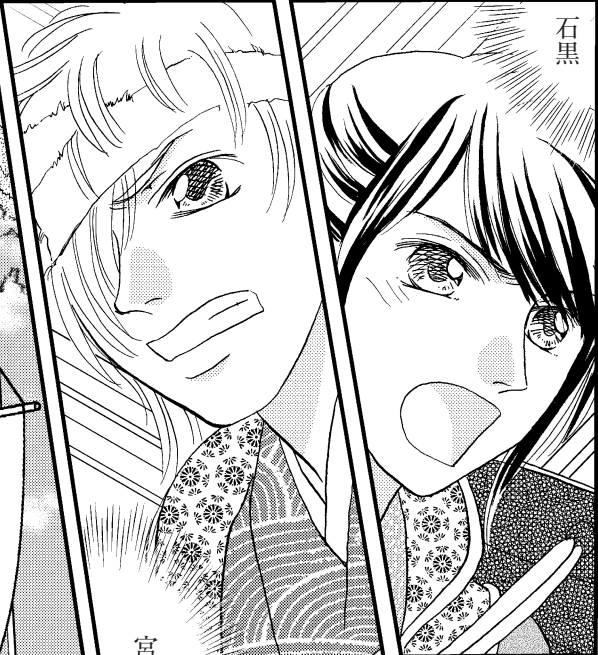
俺たちの心は
一つに
つながっている

はちまんのかみ
八幡神の
けしん
化身!!

俱利伽羅の山よ
この想いに
応えてくれ

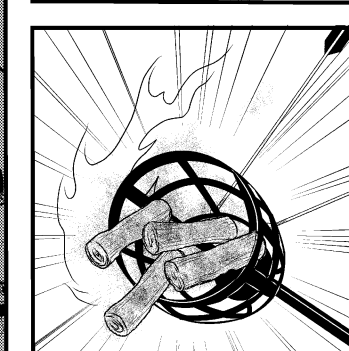
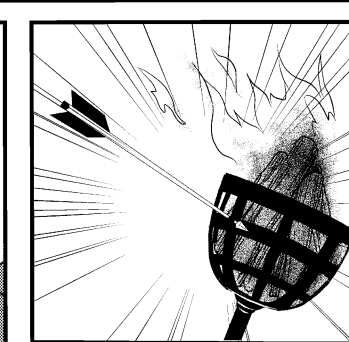
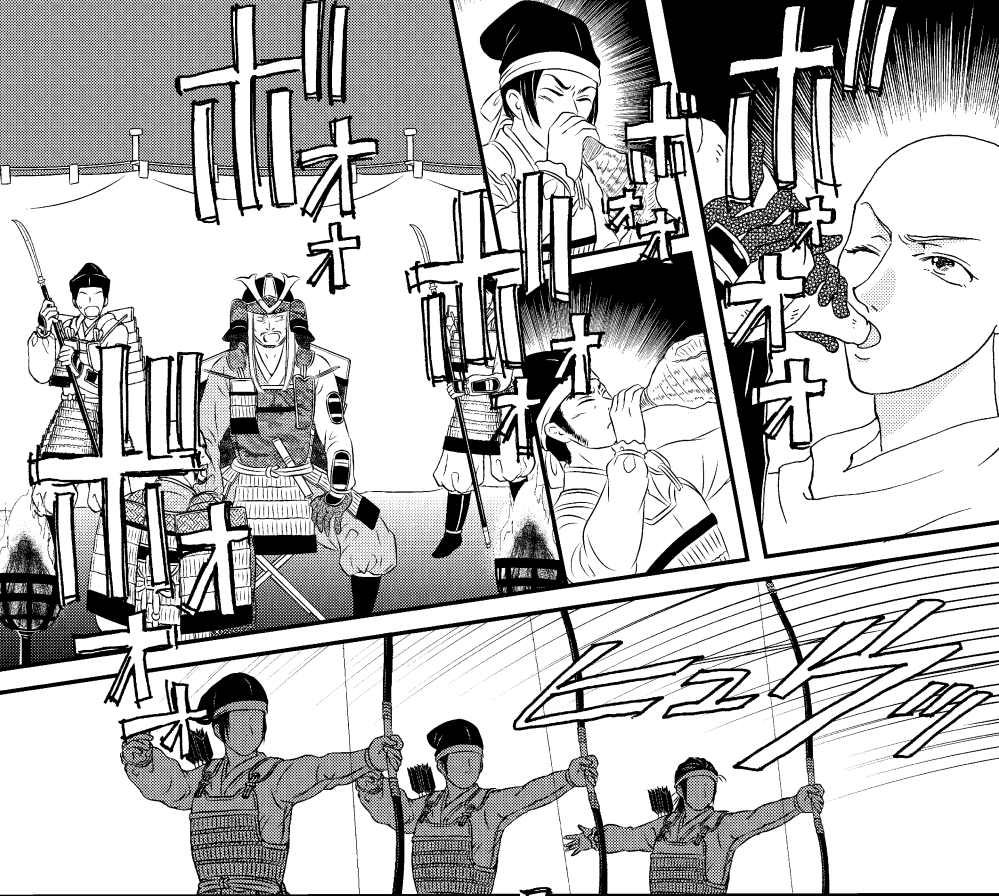


石黒



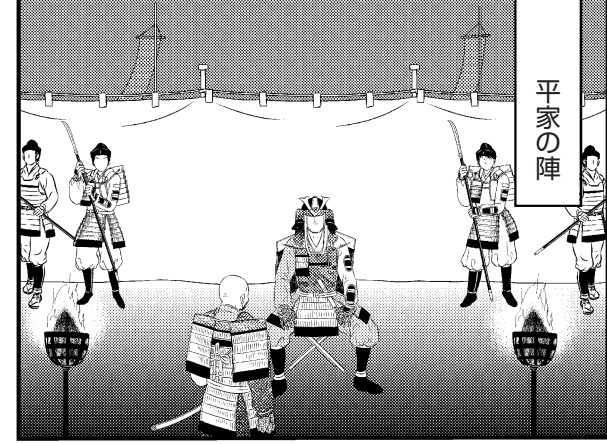
宮崎

五月十一日の日中
義仲様は作戦通り
矢を射かけたり引いたりを
くり返し山頂の猿ヶ馬場に
平家を結集させました



なんだ!?
てきとう
敵襲か?

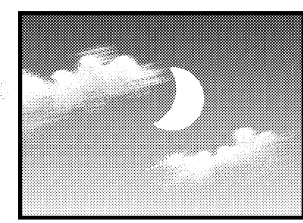
暗くて
何も見えん



平家の陣



月が雲に
かくれたら...
それが合図でした



覚明っ

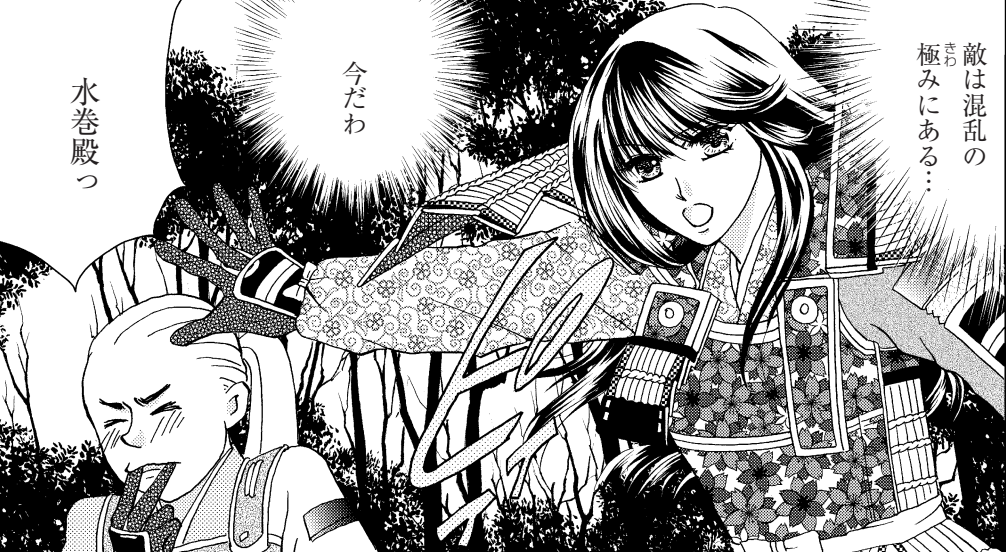
はっ

そして残りの五手は
越中の武士たちの導きに従って
平家の陣をとりかこみ
夜が来るのをまっています

水巻殿つ

今だわ

敵は混乱の
極みにある…



こっちに
向かって
くる…

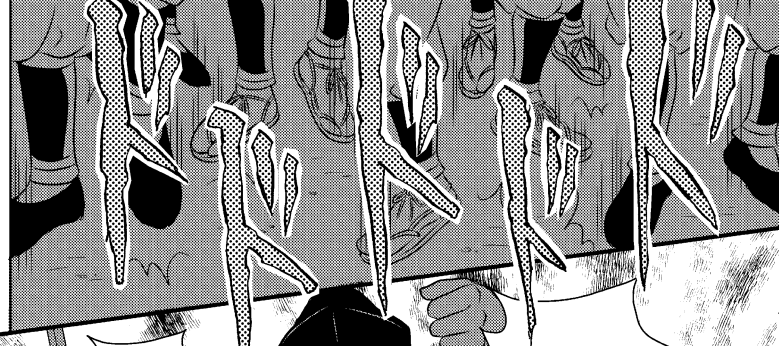
う…牛!?

なんだ?
遠くから
火の玉が…

うわああああ

こうして平家は
反撃する間もなく
谷底に
追い込まれて
いきました

宮崎、石黒らに
導かれて
四方八方から
ふみならされる
足音



ああ

うわああ

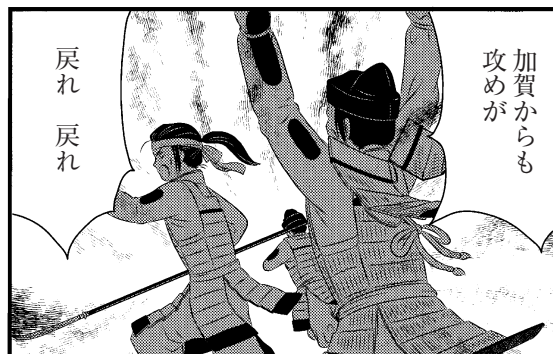
加賀へ
逃げるっ

ああ



うあっ

平家の軍は
逃げまどい
ました



戻れ
戻れ

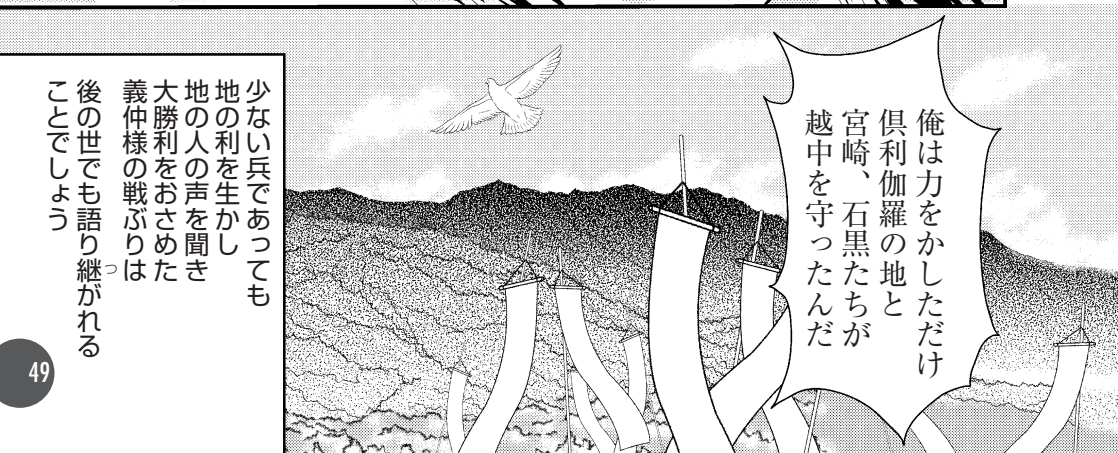
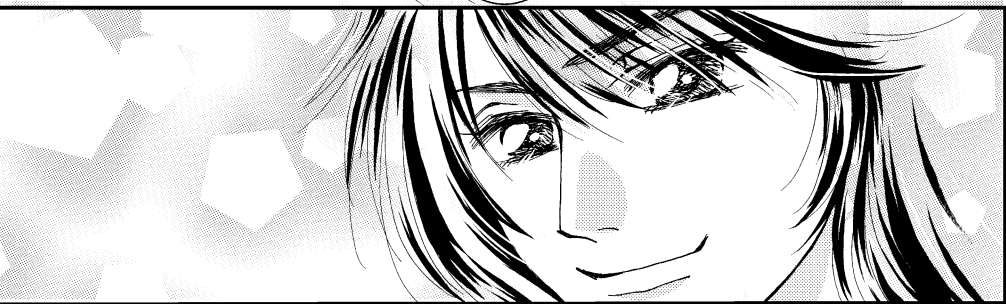
加賀からも
攻めが



しっかり
しろっ

宮崎っ!?

ホッとしたら
力が…



俺は力をかしただけ
俱利伽羅の地と
宮崎、石黒たちが
越中を守ったんだ

少ない兵であつても
地の利を生かし
地の人の声を聞き
大勝利をおさめた
義仲様の戦ぶりは
後の世でも語り継がれる
ことでしょう



そして夜が明ける
ころには
すべての音がやみ
勝敗が決しました

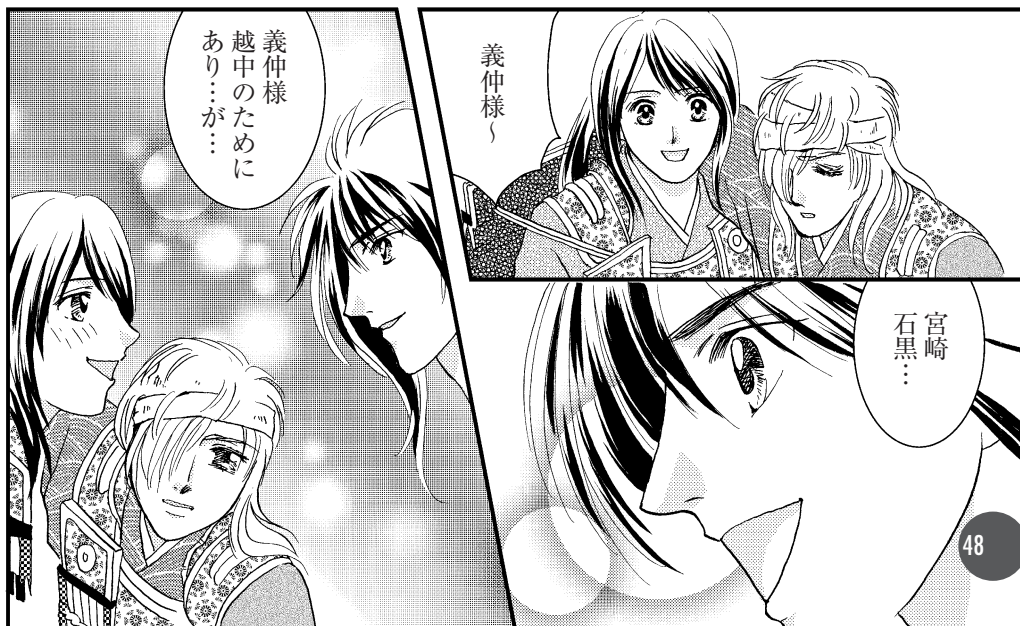
義仲様!

殿ーっ

みんな大丈夫か

弓矢隊の中には
討たれた者も
ありました

そうですか…



義仲様
越中のために
あり…が…

義仲様

宮崎
石黒…

但利伽羅合戦の後の義仲



但利伽羅合戦で勝利をおさめた義仲は、その後、加賀・越前を転戦しました。そして越前の大塩八幡宮に陣を構えるとそのまま一ヶ月の間逗留しました。大塩八幡宮は北国街道に面し、越前と若狭の国境の峠への入り口にあたります。峠を越えれば都はすぐそこです。仮に好戦的な人物であれば、但利伽羅合戦での大勝利の勢いのまま都へ乱入したことでしょう。しかし義仲はそこではありませんでした。「大軍を率いる自分が勢いに任せ

て都に入れば混乱が起る。平家と都で戦えば多くの都にすむ民が犠牲になる」そこで、平家が自ら都を去るように策を練りました。越前に控える大軍がいつ押し寄せるとか、そのプレッシャーに耐えかねた平家はついに西国に逃れ、義仲は戦をすることなく都に入りました。その様子を人々は歓迎し「朝日將軍」と称したといいます。
しかし、都に入った義仲にはさまざまな苦難が待ち受けます。平家の圧政と繰り返される戦乱によって混



弓の清水 (高岡市常国)

乱していた都では食糧調達が大きな課題でした。義仲の家来をかたき無理やり農作物を強奪する者が現れ、義仲軍勢に対する悪い噂が広まりました。また、義仲の叔父・源行家は義仲に保護されていた恩を忘れ、源氏の棟梁になろうとして、義仲の悪口を貴族たちに次々と吹きこんだのです。こうして都の中で本当の義仲とかけ離れた噂が渦を巻き、義仲の立場を危ういものにさせました。



倶利伽羅古戦場の火牛像 (小矢部市松永)



植生護国八幡宮 (小矢部市植生)

人々は決して忘れることなく、伝承として親から子へ、そして孫へと語りついでたのです。室町時代には巴・兼平・覚明を主役とする能が作られ、江戸時代には北陸を舞台にした歌舞伎も作られました。
現在、こうした伝承は忘れられつつありますが、その中に地方の人々の力強い姿や暖かさが多く含まれています。義仲の活躍を通して越中の宮崎・石黒をはじめとする地方の人々の姿を再認識してみたいかがでしょうか。



午飯岡 (砺波市小島)

さらに、次の天皇を誰にするかという貴族たちの勢力争いにも巻き込まれた義仲は、都の権力を握

る後白河法皇と対立することになりました。後白河法皇は源頼朝に義仲追討を命じ、源義経らが率いる鎌倉の源氏軍勢によって一一八四年一月義仲は琵琶湖のほとりで命を落としました。

しかし、地方の人々の幸せを強く願い、自分を犠牲にして源平合戦を戦い抜いた義仲の姿を北陸・信濃の



北陸宮墳墓 (朝日町城山)

現在配布中のマップ

義仲・巴出世街道マップ 「義仲・巴」広域連携推進会議編 富山県各地で無料配布
 砺波市文化財マップ 砺波市教育委員会編 となみ散居村ミュージアムなどで無料配布
 義仲と巴マップ 小矢部市商工観光課編 小矢部市役所などで無料配布

義仲に関する書籍

● 義仲の全体像を知りたい人へ ●
 「乱世を駆ける 木曾義仲と巴御前」 乱世を駆ける 木曾義仲と巴御前刊行委員会 2010・1
 「英雄木曾義仲」 松本利昭 少年写真新聞社 1996・1
 「木曾義仲物語」 信濃教育会出版部 1988・6
 「兼遠と義仲」 小林清三郎 銀河書房 1991・12
 「木曾義仲」 「巴御前」 田屋久男 アルファ・ゼネレーション 1992・4
 「木曾義仲」 下出積与著 人物往来社刊 1966
 「木曾義仲のすべて」 鈴木彰・樋口州男編 新人物往来社刊 2008

小説

「木曾義仲」 上・下 檀一雄著 筑摩書房刊 1955
 「木曾義仲」 松本利昭著 光文社刊 1997
 「巴御前」 松本利昭著 光文社刊 1990、1997
 「木曾義仲」 上・下 山田智彦著 日本放送協会出版刊 1999
 「木曾義仲」 小川由秋 PHP研究所 2004・11

特に富山県にまつわるもの

木曾義仲と越中武士 いきいき富山 1991・3
 週刊ビジュアル日本の合戦No. 41 講談社 2006・4
 海から来た泊町 中川 雍一 株式会社明文堂 平成5年1月
 北陸宮と宮崎氏 「北陸宮と宮崎氏」編纂委員会 朝日町 昭和45年5月
 ジュニア版福光町史 ジュニア版福光町史編集委員会編
 そのほか、関係自治体の自治体史（県史・市史・町史）に各地の義仲の様子が記されています。

現在、図書館などで読むことができる義仲・巴についての本を紹介いたします。
 いくつかを読み比べて、自分ならではの義仲・巴の姿を思い浮かべてみましょう。



ともえつか なんとしぶくみつ
 巴塚の松（南砺市福光）



しろとりじょうし とやましよしづり
 白鳥城址から望む富山平野（富山市吉作）

まんがでわかる 義仲・巴と越中武士団

マンガ 西川かおり

発行◆富山県知事政策局 〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 ☎(076) 431-4111 2010年10月24日

※複製および無断転載を禁じます。